

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

## 岡崎市地域公共交通会議 (岡崎市)

令和6年4月1日設置

令和4年3月14日 岡崎市地域公共交通計画策定  
(計画期間：令和4年4月～令和9年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業  
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

### 【地域公共交通計画について】

#### 【岡崎市の概要】（令和6年4月現在）

人口：383,141人

鉄道：3路線17駅が所在

バス：バス基幹軸を中心に49路線が所在

タクシー：市内に本社を有する事業者6社

#### 【計画策定の背景】

本市では、他の分野政策・計画との連携・連動を図りながら、地域公共交通網の形成及び確保に資するマスタープランとするため、令和4年3月に岡崎市地域公共交通計画を策定した。

#### 計画の基本理念

「新たなくらしと活力の創造を支える交通体系」



#### 基本目標

- 1 交流を支え都市の魅力を高める
- 2 地域のニーズにあった地域主体の交通
- 3 人と環境にやさしい交通
- 4 新たな社会に対応したスマートな交通



#### 成果目標

「公共交通利用者数の回復」

鉄道:2,678万人,バス:668万人,タクシー:137万人

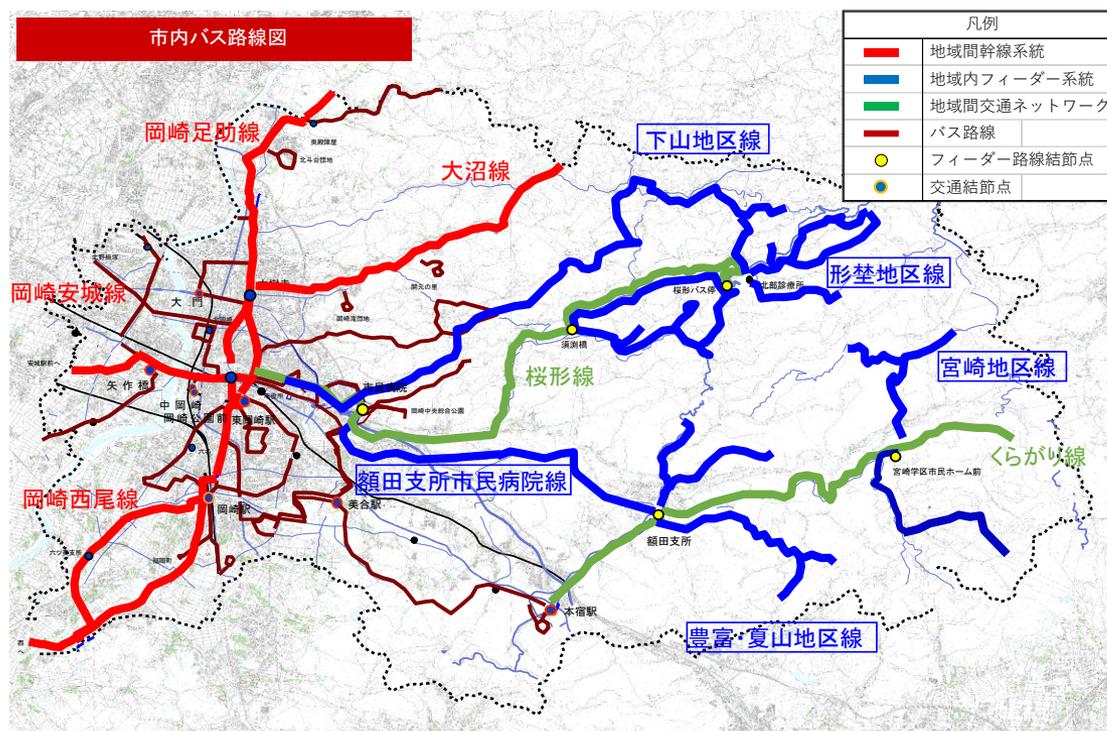


# 1. 【Plan】 協議会等が目指す地域公共交通の姿②

## 【地域公共交通確保維持改善計画について】

この計画は、生活交通の存続が危機に瀕している地域等において、地域の特性・実情に最適な移動手段として、地域公共交通の確保・維持・改善に関する事業について定める。

地域公共交通確保維持事業の区分	概要	補助対象路線	生活交通確保維持改善計画の策定主体
地域間幹線系統確保維持費国庫補助金	地域をまたがる幹線バス交通ネットワークの確保維持事業	大沼線、岡崎西尾線、岡崎足助線、岡崎安城線	愛知県公共交通協議会
地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金	山村振興法に基づき指定された振興山村（額田地域全域）を沿線を含む地域間交通ネットワークと接続する地域内交通の確保維持事業	額田支所市民病院線、下山地区線、形埜地区線、宮崎地区線、豊富・夏山地区線	<b>岡崎市地域公共交通会議</b>



基本目標	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p><b>1</b> 交流を支え都市の魅力を高める</p>	<p><b>①【おかざきスマートムーブアクション2024】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通フォトコンテストの実施</li> <li>小学生のバスの無料乗車デーの実施</li> <li>エコ通勤強化月間の実施</li> <li>バスの乗り方教室の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスの無料乗車デーには小学生100名が無料で乗車した。</li> <li>バスの乗り方教室を市内の小学校3校（302名）で実施。参加者アンケートでは、約84%の小学生が今までよりもたくさんバスに乗ってみたいと回答した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無料乗車の実施に伴い保護者の同伴により大人の利用者数も増加し、利用者数全体の増加に繋がった。</li> <li>乗り方教室を実施したうち1校が公共交通を利用した遠足を実施するなど副次的な効果があった。</li> </ul>
	<p><b>②【公共交通マップ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通マップを19,000部製作し、公共交通利用に関する情報提供を充実させ、利用者の利便性向上を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内公共施設、観光案内所及び公共交通イベント等で約14,000部配布した。（11月21日時点）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつも持ち歩いているといった声が届くなど、市民にとっては公共交通利用の手助けとなっている。</li> <li>地域内交通を検討する際の地域住民の資料として活用されている。</li> </ul>

①

**おかざきスマートムーブアクション2024**

公共交通の利用促進や活性化を図るために以下の取り組みを実施します！  
この機会にぜひ積極的に公共交通をご利用ください！

**①公共交通フォトコンテスト** ●期間 11/11(土)～12/27(土)

- 対象作品 市内の公共交通機関(電車、バス、タクシー)に乗って撮影した写真とエピソード
- 申し込み方法 インスタグラム、メールなどから作品と必要項目を記入して応募

**②小学生のバス無料乗車デー** ●期間 11/24(土)・25(日)

- 市内路線バス全線の小学生の運賃を無料にします
- 対象 市内在住・在学の小学生

**③自働運転バスの試乗** ●期間 11/24(日)～29日(金)

- 開催場所 岡崎駅前、市役所、御前・げんき館前
- 定員 各乗車1(来賓)
- 申込 11/7(水)9時～ 自動車検定/CS予約サイトにて

**④エコ通勤強化月間** ●期間 12/2(月)～27日(土)

- 集中通勤日にエコ通勤に協力していただける各社へ企業を募集します！
- 集中通勤日 12/18(水)・20(金)

お問い合わせ先  
岡崎市 公共交通課 TEL:0564-23-6761  
岡崎市 地域促進課 公共交通係 TEL:0564-23-6886



②

**岡崎市 公共交通マップ**

**OKAZAKI**

2024年11月21日版

**マイ時刻表**

よく使うバスや電車の時刻表をご記入し、ご活用ください。

行先	バス線・駅	出発時刻	バス線・駅	到着時刻
↓	↓	↓	↓	↓
↑	↑	↑	↑	↑

基本目標	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
1 交流を支え都市 の魅力を高める	<p>③【岡ジャストレイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度から愛知環状鉄道の利用促進策として、岡崎ジャストストリートの開催時期に合わせて実施（令和6年11月3日（日））</li> <li>今年度は旅行会社の企画ツアーとして岡ジャストレイン専用の臨時列車を運行〈ツアー内容〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>旅行代金（大人ひとり）6,500円</li> <li>50分×2ステージ</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者：52名</li> <li>アンケート回答者の約9割がツアー代金は適切であったとの回答を得られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間事業として成立したことで、今後ジャスだけではなく、他のコンテンツとの連携した企画も期待できる。</li> </ul>
	<p>④【おかざき巡礼タクシー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>岡崎観光伝道師「東海オンエア」を活用したデザインタクシー「おかざき巡礼タクシー」6台を期間限定で運行〈実施期間〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年3月22日（金）～5月31日（金）</li> </ul> </li> <li>〈主な仕様〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>外装のラッピング装飾や内装の装飾</li> <li>後部座席に岡崎市×東海オンエア特別動画を放映</li> <li>乗車記念証やオリジナルマップを配付</li> </ul> </li> <li>〈利用料金〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>1時間あたり11,000円～13,000円</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者：延べ57名</li> <li>運行事業者からは、「コースを組まず、行きたい所へ行けるというタクシーの強みを活かすことができ、利用者の満足度向上にもつながった。」との意見が得られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人気ユーチューバーとの連携により、若年層のタクシー利用促進につながった。</li> <li>タクシーの自由度を活かし、既存の鉄道やバス路線では効果的に回り切れない観光スポット等への誘客に繋げることができた。</li> <li>今後は他の観光コンテンツとの連携した企画も期待できる。</li> </ul>

③



④



基本目標	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p>2 地域のニーズにあった 地域主体の 交通</p>	<p>⑤【矢作デマンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「矢作デマンド」実証実験の継続（2年目）</li> <li>・地域協議会を12回/年開催</li> <li>・バス乗継割引や交通系ICカード導入の影響検証</li> <li>・運行台数変更（午後を2便→1便）の影響検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月平均利用者数は増加 240人/月(R5.4~R6.3) →301人/月(R6.4~R6.10)</li> <li>・バス乗継割引 3件(R6.10時点)</li> <li>・ICカード利用 3件(R6.10時点)</li> <li>・利用が少ない時間帯の減便のため、 運行台数変更による影響がない ことを確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民による周知 活動の影響もあり、 利用者数が増加した。</li> <li>・より最適な運行計画 とするために、引き 続き地域協議会と 検証を継続していく。</li> </ul>
	<p>⑥【チョイソコおかざき】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「チョイソコおかざき」の本格運行の開始</li> <li>・地域協議会を5回/年開催</li> <li>・運行日時の変更（平日3日9時~17時 →平日5日9時~14時）及び 運行車両の変更(特定大型車両→セダン型車両) による影響検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月平均利用者数は微減。 201人/月(R5.4~R6.3) →186人/月(R6.4~R6.10)</li> <li>・予約過多による予約不正立件数は 減少 1.5件/月 (R5.4~R6.3) →0.9件/月 (R6.4~R6.10)</li> <li>・運行計画変更による大きな影響は 生じていないことを確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運行計画変更後も 利用者数に大きな 影響はなく、利用者 から運行計画変更に よる不満の声もない ため、最適な運行計 画に近づいていると 考えられる。</li> </ul>
	<p>⑦【額田地域コミュニティ交通】★</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・額田地域コミュニティ交通の運行を継続</li> <li>・地域の移動ニーズを確認し、地域に必要な公共交通を検討するために、地域が主体となって、額田地域全世帯に対してアンケートを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R6.12月に額田地域の2,374世帯に アンケートを実施した。 (アンケート回収率40%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度中に完了する アンケートの分析結 果をもとに、今後の 必要な公共交通を 地域と検討していく。</li> </ul>

★は補助対象の取組について記載

※その他（基本目標2）

公共ライドシェア導入に関する調査検討として「山吉田ふれあい交通」（新城市）を視察した。

基本目標	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p>3 人と環境にやさしい交通</p>	<p>⑧【高齢者パス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名鉄バス（株）が65歳以上を対象に発売する高齢者パスの購入費用の一部を補助</li> <li>・より多くの方に制度を利用してもらうため、以下のとおり補助内容を変更                     <ul style="list-style-type: none"> <li>▶令和6年度は前年より補助期間を延長（7月～9月末 → 7月～3月末）</li> <li>▶補助額を増額、</li> <li>▶補助回数を一人一回までに変更（市への事前の申込みが必要）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助内容の変更により、令和5年度を超える新規購入者を確保することができている。 令和5年度：63人 令和6年度：64人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助内容を変更したことにより、新規購入者が増加傾向にあり、公共交通機関を利用するきっかけ作りに寄与した。</li> </ul>

⑧ 「シルバーパス65」・「ゴールドパス70」  
**岡崎市**が購入費用の一部を補助します！ 

**対象者**

- 次の（1）及び（2）の条件をいずれも満たすかた
- （1） 補助券申込時に満65歳以上の**岡崎市内在住**のかた
  - （2） 購入時に**岡崎市内在住**のかた

**価 格**

	シルバーパス65 (満65歳～69歳)	ゴールドパス70 (満70歳以上)
	通常価格→購入価格	通常価格→購入価格
1ヶ月券 (2,000円補助)	7,000円 → <b>5,000円</b>	5,500円 → <b>3,500円</b>
3ヶ月券 (5,000円補助)	20,000円 → <b>15,000円</b>	16,000円 → <b>11,000円</b>

基本目標	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p>4 新たな社会に対応したスマートな交通</p>	<p>⑨【電動キックボード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市中心部の回遊性を向上させ、にぎわいづくりを促進するとともに、本市における電動キックボード導入の可能性を検証するため実証実験を実施（R6.8～R7.3）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用件数 1,259件（R6.8.29～R6.11.30）</li> <li>・最多利用日 10月14日（祝）50件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他市の都市部と比較し、利用時間が長いため、エリア内の回遊性向上に貢献していると推察される。</li> <li>・利用者アンケートや走行データ分析を実施し、事業の採算性や継続性について検証する。</li> </ul>
	<p>⑩【自動運転バス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動運転バスの実証実験を実施（R6.11.24～R6.11.29）</li> <li>・既存バス路線をベースに東岡崎駅～中央総合公園をレベル2で走行</li> <li>・中央総合公園の駐車場内にて運転席無人で走行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全区間乗車人数（予約制） 182人</li> <li>・イベント時乗車人数 364人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート回答者190人のうち162人は危険を感じなかったと回答。また、110人が再度の乗車を希望する結果となった。</li> </ul>
	<p>⑪【グリーンスローモビリティ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北斗台地区における「グリーンスローモビリティ」の実証運行を実施（R6.5.7～R6.6.2）</li> <li>・実証運行では、定時定路線2ルートとデマンド運行を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗車人数 843人（定時定路線565人、デマンド278人）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館や商業施設の利用が多く、生活の足となったと推察される。</li> <li>・効果検証を行い、持続可能な移動手段の確保を検討する。</li> </ul>

⑨



（画像は株式会社LuupのHPから <https://luup.sc/>）

⑩



⑪



### 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察①

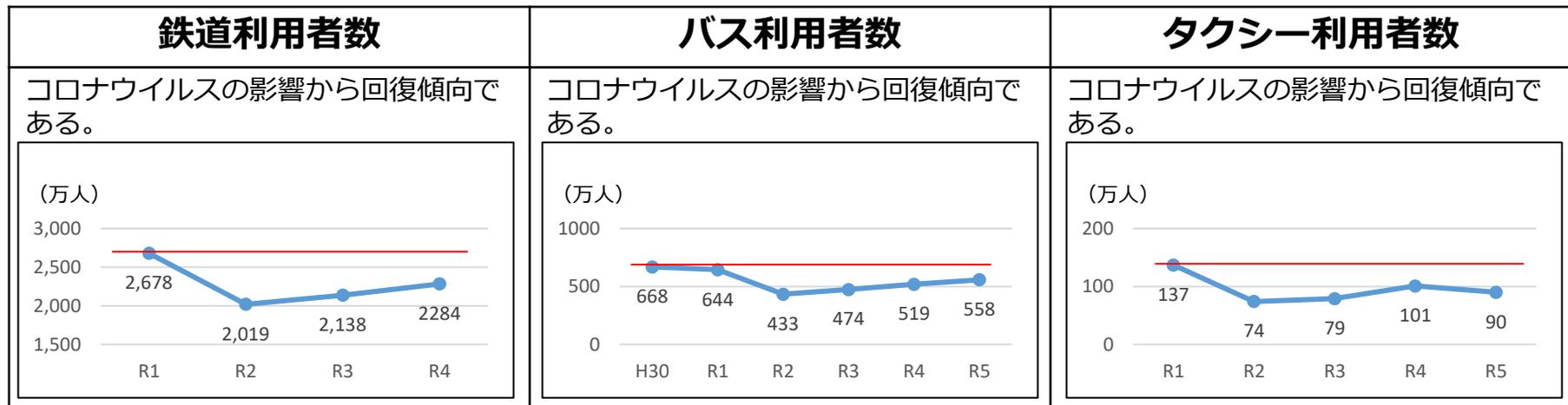
#### 【地域公共交通計画における目標の達成状況】

成果目標・目標値（※1）		達成状況（※2）				
		1年目	2年目	3年目 （本年）	4年目	5年目
公共交通利用者数の回復	鉄道利用者数 2,678万人（令和8年度）	2,019万人 （令和2年度）	2,138万人 （令和3年度）	2,284万人 （令和4年度）		
	バス利用者数 668万人（令和8年度）	474万人 （令和3年度）	519万人 （令和4年度）	558万人 （令和5年度）		
	タクシー利用者数 137万人（令和8年度）	79万人 （令和3年度）	101万人 （令和4年度）	90万人 （令和5年度）		

※1 コロナ禍前の平成30年度～令和2年度の最大値を目標値として設定

※2 把握できる直近の数値を記載

#### 【計画目標の現在の到達点】 ※赤線：目標値 青線：実績



#### ○考察

- ・大河ドラマ放送の影響や新型コロナウイルスの分類変更などの影響により、鉄道、バス、タクシー共に令和3年度と比較して利用者数が回復している。
- ・鉄道やバスについては、定期利用者が増加している事業者もあり、通勤・通学需要も回復傾向にあると推察される。

## 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察②

## 【地域公共交通確保維持改善計画における目標の達成状況】

## ○計画における目標値

①利用者数：令和4年度実績値の1%増の数値

②利用率：人口が減少傾向にあるため、令和4年度実績値から上昇するように目標値を設定

路線名	①利用者数			②利用率			目標・効果 達成状況 A/B/C
	令和6年度 目標(人) R05.10～R06.9	令和6年度 実績(人) R05.10～R06.9	評価	令和6年度 目標(人) R05.10～R06.9	令和6年度 実績(人) R05.10～R06.9	評価	
A:額田支所市民病院	4,879	5,485	達成	0.13%	0.14%	達成	A
B:下山地区線	2,635	4,201	達成	1.32%	2.25%	達成	A
C:形埜地区線	409	111	未達成	0.67%	0.19%	未達成	B
D:宮崎地区線	328	170	未達成	1.01%	0.53%	未達成	B
E:豊富・夏山地区線	270	122	未達成	0.19%	0.08%	未達成	B

路線名	③日利用者数	④沿線人口	⑤年間運行日数
	令和6年度 実績(人) R05.10～R06.9	令和6年10月 (人)	令和6年度 実績(日) R05.10～R06.9
A:額田支所市民病院	15.0	10,959	365
B:下山地区線	17.3	770	243
C:形埜地区線	2.3	1,190	48
D:宮崎地区線	3.4	647	50
E:豊富・夏山地区線	4.4	2,881	51

※「②利用率」＝「③日利用者数」／「④沿線人口」×100

※「③日利用者数」＝「①年間利用者数」／「⑤年間運行日数」

○参考（令和7年度以降計画における目標値の見直し）

額田地域の人口減少を加味したうえで、利用率を0.01%上昇させることにより、利用者数の維持を図る。

利用者数：前年度人口×額田地域の想定人口下落率×利用率×年間運行日数

利用率：令和5年度実績を基に、毎年0.01%を加算する

## ○考察

**A評価路線** 通勤、通学及び通院への利用が多く、目標を達成した。特に下山地区線は、地区内の高校生や小規模特認校制度を利用して下山小学校に通学する地区外の児童等の定期的な利用者が増加したことで利用者数増加につながった。

**B評価路線** 定期的に利用していた高齢者が外出できなくなる一方で、高齢者世代が免許を保有し運転し続けていることによりバスの利用者数が減少していると考えられる。目標は未達成だが、地区の総代会及び社会教育委員会が独自で回数券の補助を行うなど、利用促進や路線維持に努める活動が見られるためB評価とした。

## 4.【Act】 計画目標の達成に向けた今後の取組方針

### 【地域公共交通計画における今後の方針】

<p><b>全体</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用促進策として実施する「おかざきスマートムーブアクション」の取組である、公共交通フォトコンテストやエコ通勤強化月間、バスの乗り方教室を引き続き実施し、子どもや公共交通を普段利用していない方などが公共交通に触れたり親しむ機会を創出することで、公共交通の利用促進に繋げていく。</li> </ul>
<p><b>鉄道利用者数</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキングツアーやジャストレイン等を事業者と連携して実施することで、公共交通の利用促進に繋げていく。</li> <li>・パークアンドライドのほか、公共交通と連動したサイクルアンドライドを推進するため、鉄道駅でのシェアサイクルの利用状況を分析し、利用回数が増加しているステーションへの自転車の再配置を行うことで、周遊しやすい環境を整備。</li> </ul>
<p><b>バス利用者数</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者パスの購入費用の補助を継続するとともに、市広報誌等で高齢者パス及び補助内容を周知し、公共交通の利用のきっかけづくりを行う。</li> <li>・チョイソコおかざきや矢作デマンドの導入によって、既存路線とのシームレスな移動を確保し、移動総量の増加に繋がるかを検証していく。</li> <li>・事業者が実施する「こどもmanacaおでかけキャンペーン」などと連携することで、公共交通の利用促進に繋げていく。</li> </ul>
<p><b>タクシー利用者数</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タクシー事業者と利用実態等の情報共有を行い、利用促進策の検討を行う。</li> <li>・地域内交通の導入に際し、タクシー事業者とともに事業を進めていく。</li> </ul>

### 【地域公共交通確保維持改善計画における今後の方針】

- ・地域が中心となり利用促進に取り組んでおり、引き続き各施策を実施するとともに、地域住民や運行事業者等と連携し、より一層の利用を促進する。
- ・実利用者数が少なく、利用される方が一人でも減ると利用者数及び利用率の目標達成に影響がでるが、利用している方にとっては必要不可欠な路線であるため、需要に応じた効率的な運行の維持を図る。
- ・目標未達成路線については、引き続き回覧等を通じて周知を図ると共に、必要な人が利用できるよう、アンケート結果を分析し、移動ニーズをより反映した地域内交通となるよう地域と連携し検討を行う。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	引き続き、地域間幹線系統の利用状況に留意し、地域内フィーダー補助系統の利用者数の目標が未達成のものについては、引き続き利用促進が行われると共に、利用が想定される方々の人数やその方々へ周知されているか、また、地域住民の移動ニーズの丁寧な把握など、分析の深掘り等についても検討されることを期待します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域間幹線系統について、民間バス事業者及び隣接市と連携し、利用促進について検討した。特に、岡崎・安城線は商業施設を通るようにルート変更をし、より利用しやすい路線とした。</li> <li>地域内フィーダー補助系統について、沿線の地域住民の移動ニーズを確認し、地域に必要な公共交通を検討するために、地域が主体となって額田地域全世帯に対してアンケートを実施した。また、アンケートと共に運行チラシを配布し、周知にも努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き民間バス事業者及び隣接市と調整を行い、地域間幹線の利用促進の検討を行う。</li> <li>アンケートの実施結果をもとに、地域の移動ニーズが反映された公共交通を地域と共に検討していく。</li> </ul>

※前回：令和6年3月21日

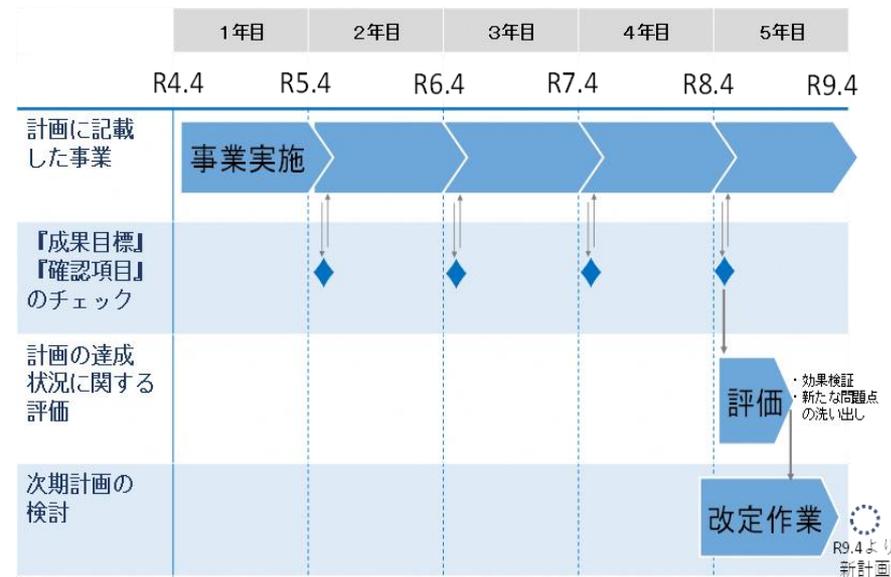
年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	<p>地域間幹線系統である大沼線及び岡崎・安城線の輸送量が補助要件基準の15人に逼迫しつつあることから、現状の把握に努められるとともに、関係する豊田市・安城市と連携して利用促進を図るよう期待します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大沼線及び岡崎安城線について利用状況を分析するとともに、民間バス事業者及び豊田市・安城市と打合せを行い、連携した利用促進について検討した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き民間バス事業者及び豊田市・安城市と調整を行い、利用促進の検討を行う。</li> <li>路線再編を検討する場合は、沿線住民のニーズ調査を行う。</li> </ul>
	<p>デマンド運行について既存の公共交通との役割分担を共有し地域住民と連携して、持続可能なルール作りや運行情報の積極的な利用者周知を引き続き実施することを期待します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域協議会を1,2か月に1回のペースで開催し、地域住民、運行事業者及び自治体が連携して、持続可能なルール作りや運行情報の積極的な利用者周知の方法を検討した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き地域協議会を定期的で開催し、各地域に適した交通となるよう検討を行う。</li> </ul>

※前々回：令和5年3月10日

## 6.計画・評価の推進体制

### ○岡崎市の計画の推進方法・推進体制

【計画の推進方法】



- 本計画は、計画全体の目指すところとして『成果目標』を、各基本目標の達成度合いをチェックする目的として『確認項目』を設定し、達成状況を見ながら、計画の進捗状況を管理していく。
- 計画4年目時点には最終評価を行い、計画5年目時点で次期計画策定に向けた検討を進めていく。
- 数値指標の目標値は、計画期間中（令和8年度まで）に達成するものだが、毎年度開催する岡崎市公共交通会議にて前年の実施事業の評価とあわせて達成状況を確認していく。

### ○協議会の実施状況

- 第1回岡崎市地域公共交通会議 5月20日  
主な議題：地域公共交通計画（案）について
- 第2回岡崎市地域公共交通会議 8月7日  
主な議題：公共交通利用促進事業について
- 第3回岡崎市地域公共交通会議 10月11日  
主な議題：おかざきスマートムーブアクション2024の進捗状況について

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 12月 27日

協議会名: 岡崎市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>【補助対象となる事業者名等の名称を記載】</p>	<p>【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】</p>	<p>【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】</p>	<p>A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】</p>	<p>A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】</p>	<p>【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載</p>
<p>名鉄バス(株)</p>	<p>額田支所市民病院線 額田センター～市民病院</p>	<p>前回の二次評価において「引き続き、地域間幹線系統の利用状況に留意し、地域内フィーダー補助系統の利用者数の目標が未達成のものについては、引き続き利用促進が行われると共に、利用が想定される方々の人数やその方々へ周知されているか、また、地域住民の移動ニーズの丁寧な把握など、分析の深掘り等についても検討されることを期待します。」とご意見をいただいた。二次評価を踏まえて、地域住民を対象にアンケート調査を実施し、移動ニーズの把握に努めた。  ・名鉄バス(株)が販売する高齢者バスの周知及び補助を行うなど、利用促進に努めた。</p>	<p>A 事業は計画通り実施された。</p>	<p>A 【利用者数】達成 目標: 4,879人 実績: 5,485人 【利用率】達成 目標: 0.13% 実績: 0.14%  【要因】 市民病院への移動だけでなく市街地への乗換にも利用されており、医療施設や市街地への移動の際に必要な地域住民の生活の足として重要な役割を担う路線となっている。</p>	<p>【行政】 ・引き続き各施策を実施するとともに、地域住民や運行事業者等と連携し、より一層の利用を促進していくとともに、今回のアンケート結果を分析し、移動ニーズをより反映させた交通となるよう事業者と協議を行う。  ・高齢者バスの補助額を増加させるだけでなく、市広報誌等で高齢者バス及び公共交通検索方法を周知し、公共交通の利用を促進する。また、より需要にあった補助事業とするため、どういった需要があるのかを把握するアンケートを高齢者バス購入者に行い、高齢者バス購入に対する市の補助内容の変更を検討していく。  【事業者】 ・利用状況等の現状分析や改善点等の検討を行うとともに、運転手不足の影響を考慮しつつ運行を継続する。</p>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
(株)西三交通	<p>下山地区線A 桃ヶ久保～市民病院～岡崎げんき館前</p> <p>下山地区線B 岡崎げんき館前～洞町～桃ヶ久保</p> <p>下山地区線C 岡崎げんき館前～桃ヶ久保～北部診療所</p> <p>下山地区線E 桃ヶ久保～豊田鉄工前～岡崎げんき館前</p>	<p>前回の二次評価において「引き続き、地域間幹線系統の利用状況に留意し、地域内フィーダー補助系統の利用者数の目標が未達成のものについては、引き続き利用促進が行われると共に、利用が想定される方々の人数やその方々へ周知されているか、また、地域住民の移動ニーズの丁寧な把握など、分析の深掘り等についても検討されることを期待します。」のご意見をいただいた。二次評価を踏まえて、地域住民を対象にアンケート調査を実施し、移動ニーズの把握に努めた。</p> <p>・地域が中心となり、下山地区線で利用できる高齢者定期券の周知及び補助を行い、利用促進に努めた。</p> <p>・老人クラブで下山地区線を活用し、市街地等での活動を実施している。</p>	A 事業は計画通り実施された。	A 【利用者数】達成 目標: 2,635人 実績: 4,201人 【利用率】達成 目標: 1.32% 実績: 2.25% 【要因】 特認校制度による小学生の定期的な利用が増加したことが、達成要因と考えられる。 高校生以下の利用においては定期的な利用が増加、学生利用の長期的な需要が見込まれている。高齢者の診療所への移動は、若干の減少があるが、自家用車等の利用が困難な方にとっては、医療施設への移動に不可欠なため、地域にとって必要な路線である。	<p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が中心となり利用促進に取り組んだ結果、特認校制度による小学生の定期的な利用や高校生の定期的な利用により目標が達成されており、引き続き各施策を実施するとともに、地域住民や事業者と連携し、路線の維持に努める。</li> <li>・アンケート結果を分析し、移動ニーズをより反映した交通になるように事業者及び地域協議会と検討をしていく。</li> </ul> <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老人クラブのイベント活用、バス停整備等の地元主体の活動について引き続き利用してもらえよう地元クラブ等への周知に努める。</li> <li>・知らない人がいないよう運行内容のチラシ及び利用状況やお得なバスの使い方等のチラシを地域住民に配付し、一層の周知に努めるとともに、利用者の声を聞きながら、需要把握に務める。</li> </ul> <p>【事業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用状況等の現状分析や改善点等の検討を行うとともに、運転手不足の影響を考慮しつつ運行を継続する。また、地元のイベント周知に協力するなど運行車両を活用した利用促進を引き続き行う。</li> </ul>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
(株)西三交通	形埜地区線(南大須・鍛埜ルート) 北部診療所～須淵橋～北部診療所  形埜地区線(切山・小久田・毛呂・井沢ルート) 北部診療所～切山横手辻～北部診療所	前回の二次評価において「引き続き、地域間幹線系統の利用状況に留意し、地域内フィーダー補助系統の利用者数の目標が未達成のものについては、引き続き利用促進が行われると共に、利用が想定される方々の人数やその方々へ周知されているか、また、地域住民の移動ニーズの丁寧な把握など、分析の深掘り等についても検討されることを期待します。」とご意見をいただいた。二次評価を踏まえて、地域住民を対象にアンケート調査を実施し、移動ニーズの把握に努めた。  ・形埜地区線で利用できる高齢者定期券の購入費における1割を地域の社会教育委員会が助成する取組を継続して行うなど、利用促進を図った。	A 事業は計画通り実施された。	【利用者数】未達成 目標:409人 実績:111人 【利用率】未達成 目標:0.67% 実績:0.19%  【要因】 人口減少とともに地域の高齢化が進んでいるが、新規の利用者は増えておらず、利用人数が徐々に減少している。利用者の主な移動先が診療所や地域の商店のため、地域住民の日々の生活を支え、自家用車等の利用が困難な方にとっては不可欠な路線である。	【行政】 ・実利用者数が少なく、定期的な利用者が一人でも乗車できなくなると利用者数及び利用率の目標達成に影響がでるが、利用している方にとっては必要不可欠な路線であるため、地域住民や事業者と連携し、路線の維持に努める。  ・アンケート結果を分析し、移動ニーズをより反映した交通になるように事業者及び地域協議会と検討をしていく。  【地域】 ・形埜地区線で利用できる高齢者定期券の購入費用における1割を地域の社会教育委員会が助成する取組を継続して行う。  ・知らない人がいないよう運行内容のチラシ及び利用状況やお得なバスの使い方等のチラシを地域住民に配付し、一層の周知に努めるとともに、利用者の声を聞きながら、需要把握に務める。  【事業者】 ・接続する路線で利用できる高齢者バスや小学生の遠足等で積極的に利用していただけるよう公共交通利用について一層の周知を図る。  ・利用状況等の現状分析や改善点等の検討を行うとともに、運転手不足の影響を考慮しつつ運行を継続する。また、地元イベント周知に協力するなど運行車両を活用した利用促進を引続き行う。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
株西三交通	宮崎地区線(大雨河ルート) 宮崎診療所～高雲寺～宮崎診療所  宮崎地区線(千万町ルート) 宮崎診療所～木下公民館～宮崎学区市民ホーム前	前回の二次評価において「引き続き、地域間幹線系統の利用状況に留意し、地域内フィーダー補助系統の利用者数の目標が未達成のものについては、引き続き利用促進が行われると共に、利用が想定される方々の人数やその方々へ周知されているか、また、地域住民の移動ニーズの丁寧な把握など、分析の深掘り等についても検討されることを期待します。」のご意見をいただいた。二次評価を踏まえて、地域住民を対象にアンケート調査を実施し、移動ニーズの把握に努めた。  ・地元総代会を中心に、宮崎地区線で利用できる回数券の補助を行うなど、利用促進を図った。	A 事業は計画通り実施された。	B 【利用者数】未達成 目標: 328人 実績: 170人 【利用率】未達成 目標: 1.01% 実績: 0.53%  【要因】 人口減少とともに地域の高齢化が進んでいるが、新規の利用者が増えず、利用者数が減少している。利用者の主な移動先が診療所や地域の商店のため、地域住民の日々の生活を支え、自家用車等の利用が困難な方にとっては不可欠な路線である。	【行政】 ・実利用者数が少なく、定期的な利用者が一人でも乗車できなくなると利用者数及び利用率の目標達成に影響がでるが、利用している方にとっては必要不可欠な路線であるため、地域住民や事業者と連携し、路線の維持に努める。  ・アンケート結果を分析し、移動ニーズをより反映した交通になるように事業者及び地域協議会と検討をしていく。  【地域】 ・宮崎地区線で利用できる回数券の補助を地域組織が助成する取組を継続して行う。  ・知らない人がいないよう運行内容のチラシ及び利用状況やお得なバスの使い方等のチラシを地域住民に配付し、一層の周知に努めるとともに、利用者の声を聞きながら、需要把握に務める。  【事業者】 ・接続する路線で利用できる高齢者バスや小学生の遠足等で積極的に利用していただけるよう公共交通利用について一層の周知を図る。  ・利用状況等の現状分析や改善点等の検討を行うとともに、運転手不足の影響を考慮しつつ運行を継続する。また、地元のイベント周知に協力するなど運行車両を活用した利用促進を引続き行う。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
(株)西三交通	<p>豊富・夏山地区線(夏山ルート) 市道～ハズノモト～星野クリニック</p> <p>豊富・夏山地区線(鳥川ルート) 額田センター～平針～星野クリニック</p>	<p>前回の二次評価において「引き続き、地域間幹線系統の利用状況に留意し、地域内フィーダー補助系統の利用者数の目標が未達成のものについては、引き続き利用促進が行われると共に、利用が想定される方々の人数やその方々へ周知されているか、また、地域住民の移動ニーズの丁寧な把握など、分析の深掘り等についても検討されることを期待します。」のご意見をいただいた。二次評価を踏まえて、地域住民を対象にアンケート調査を実施し、移動ニーズの把握に努めた。</p> <p>・地元総代会を中心に豊富・夏山地区線で利用できる回数券への補助を行うなど、利用促進を図った。</p>	A 事業は計画通り実施された。	<p>【利用者数】未達成 目標: 270人 実績: 122人</p> <p>【利用率】未達成 目標: 0.19% 実績: 0.08%</p> <p>【要因】 人口減少とともに地域の高齢化が進んでいるが、新規の利用者が増えず、利用者数が減少している。利用者の主な移動先が診療所や地域の商店のため、地域住民の日々の生活を支え、自家用車等の利用が困難な方にとっては不可欠な路線である。</p>	<p>【行政】 ・実利用者数が少なく、定期的な利用者が一人でも乗車できなくなると利用者数及び利用率の目標達成に影響がでるが、利用している方にとっては必要不可欠な路線であるため、地域住民や事業者と連携し、路線の維持に努める。</p> <p>・アンケート結果を分析し、移動ニーズをより反映した交通になるように事業者及び地域協議会と検討をしていく。</p> <p>【地域】 ・豊富・夏山地区線で利用できる回数券の補助を地域組織が助成する取組を継続して行う。</p> <p>・知らない人がいないよう運行内容のチラシ及び利用状況やお得なバスの使い方等のチラシを地域住民に配付し、一層の周知に努めるとともに、利用者の声を聞きながら、需要把握に務める。</p> <p>【事業者】 ・接続する路線で利用できる高齢者バスや小学生の遠足等で積極的に利用していただけるよう公共交通利用について一層の周知を図る。</p> <p>・利用状況等の現状分析や改善点等の検討を行うとともに、運転手不足の影響を考慮しつつ運行を継続する。また、地元のイベント周知に協力するなど運行車両を活用した利用促進を引続き行う。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 6年 12月 27日

協議会名:	岡崎市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持改善費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p><b>【目指すべき将来像】</b> 本市では、他の分野政策・計画との連携・連動を図りながら、地域公共交通網の形成及び確保に資するマスタープランとするため、令和4年3月に岡崎市地域公共交通計画を策定し、公共交通の基本理念及び基本目標を次のとおり設定した。</p> <p>(基本理念) 新たなくらしと活力の創造を支える交通体系</p> <p>(基本目標) ①交流を支え都市の魅力を高める、②地域のニーズにあった地域主体の交通、③人と環境にやさしい交通、④新たな社会に対応したスマートな交通</p> <p><b>【事業実施の目的・必要性】</b> 買い物や通院など、中山間地域拠点や診療所など日常生活において最低限必要な施設などとの接続のため週1日程度の運行を確保・維持することを目的とする。地域のコミュニティの活性化を維持するため、また、住民の誰もが外出する機会を確保するために、存続させていくことが必要な路線である。</p>